

《原 著》

## 神経芽腫の診断における $^{123}\text{I}$ -MIBG シンチグラフィの集積程度 サイズ，尿中カテコールアミン代謝産物，組織型についての検討

奥山 智緒\* 牛嶋 陽\* 渡辺 薫\* 杉原 洋樹\*  
西村 恒彦\*

\* 京都府立医科大学放射線医学教室

要旨 治療前の神経芽腫 23 例の  $^{123}\text{I}$ -MIBG の原発巣への集積程度に関係する因子を検討した。 $^{123}\text{I}$ -MIBG 37-111 MBq を静注し，24 時間後の全身像または planar 像にて，原発巣の集積程度を視覚的に 4 段階評価 (grade 3：非常に強い集積～grade 0：異常集積なし) した。grade 3, 2, 1, 0 を示したのは各々 10 (44%)，7 (30%)，4 (17%)，2 (9%) 例であった。原発巣の集積程度は腫瘍径や転移巣の広がりとは相関せず，尿中 VMA，HVA 値と相関した。最も未分化の neuroblastoma round cell type と高分化 ganglioneuroma や ganglioneuroblastoma well differentiated type は他の組織型より低集積であった。

(核医学 36: 827-834, 1999)